

中国



1 農・畜産業の概況

中国は、日本の25.6倍に当たる9.6億ヘクタールの国土を有しており、耕地面積は、1億2172万ヘクタールと国土の12.7%を占め、この割合は日本とほぼ同じである。

中国の農業は、国内総生産（GDP）で全体の約10.1%（2010年）と産業全体に占める割合は必ずしも高くないものの、就業人口では全体の36.7%（2010年）となり、依然として中国の重要な産業部門となっている。

中国の農林水産業総生産額は、最近、増加傾向にあり、2010年は、6兆9319億8000万元となった。農林水産業の部門別生産額割合の推移を見ると、1980年には全農林水産業生産額の7割以上を占めた農業は、徐々に縮小が進み、2000年以降、5割前後で推移している。他方、1980年には2割以下のシェアの畜産業は、国民所得向上による食肉消費の拡大を背景に急成長を遂げ、2001年以降、30%前後で推移している。

表1 農林水産業の地位

(単位: 億元、万人)

区分/年	2006	2007	2008	2009	2010	前年比
GDP	216,214.4	265,810.3	314,045.4	340,902.8	401,512.8	117.8%
うち農林水産業	24,040.0	28,627.0	33,702.0	35,226.0	40,533.6	115.1%
GDP比	11.1	10.8	10.7	10.3	10.1	▲0.2ポイント
就業人口	74,978	75,321	75,564	75,828	76,105	100.4%
うち農林水産業 従事者数	31,941	30,731	29,923	28,890	27,931	96.7%
就業人口比	42.6	40.8	39.6	38.1	36.7	▲1.4ポイント

資料: 中国国家统计局「中国統計年鑑」

表2 一人当たり平均年間所得

(単位: 元)

区分/年	1990	2010
都市部	1,510	19,109 (248,417円)
農村部	686	5,919 (76,947円)

資料: 中国国家统计局「中国統計年鑑」

注: 1元=13円

表3 一人当たり年間食肉消費量

(単位: kg/人)

区分/年		2009年	2010年
都市部	牛肉	2.38	2.53
	豚肉	20.50	20.73
	鶏肉	10.47	10.21
農村部	牛肉	0.56	0.63
	豚肉	13.96	14.40
	鶏肉	4.25	4.17

資料: 中国国家统计局「中国統計年鑑」

注: 都市部は購入数量、農村部は消費数量

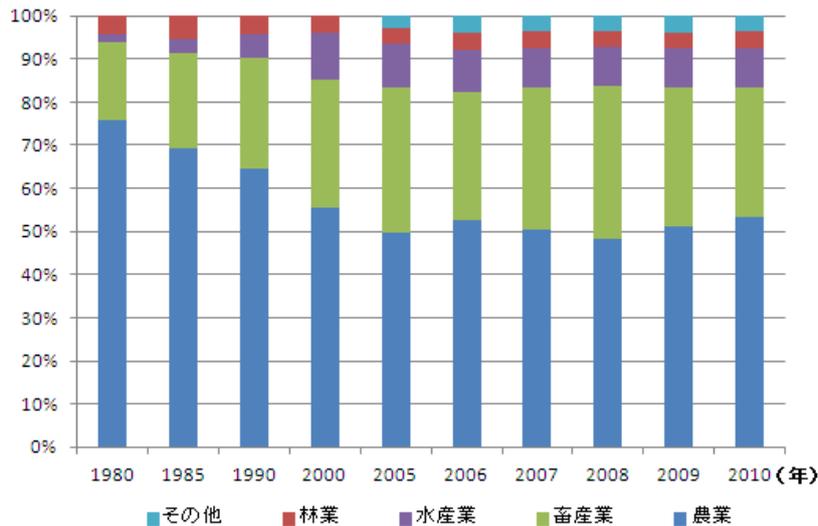
表4 農林水産業総生産額の推移

(単位:億元)

区分/年	2006	2007	2008	2009	2010
農林水産業 総生産額	40810.8	48893	58002.2	60361	69319.8
農業	21522.3	24658.1	28044.2	30611.1	36941.1
林業	1610.8	1861.6	2152.9	2359.4	2595.5
畜産業	12083.9	16124.9	20583.6	19468.4	20825.7
水産業	3970.5	4457.5	5203.4	5626.4	6422.4
その他	1623.3	1790.9	2018.1	2295.7	2535.1

資料:中国国家統計局「中国統計年鑑」

図1 部門別生産額割合の推移



資料:中国国家統計局「中国統計年鑑」

注:第二次全国農業センサス(2006年末時点)の結果に基づき、2006年のデータが大幅修正されたことから、2005年以前と2006年以後の数値は連続しない。

2 畜産の動向

(1) 養豚・豚肉産業

豚肉は、中国の食肉総生産量の3分の2を占める主食であり、伝統的な食文化を形成する重要な畜産物である。FAOのデータ※によると、2010年の中国の豚肉生産量は世界第1位であり、第2位であるEUの約2.3倍、全世界の生産量の47.3%を占めている(※以後、EUは国別で勘案)。また、最近では、生産規模の拡大や飼養技術の向上など、生産性が改善したことにより、2010年の

出荷頭数(6億7000万頭)と飼養頭数(4億6000万頭)の比率は1.44と、欧米水準(1.5以上)に近づきつつある。また、国民所得の向上に併せ、一部では高級品志向も高まり、脂肪の多い中国在来種と赤肉の多い外来種との交配によって肉質が変化しつつある。

年間の出荷規模別規模別飼養状況は以下のとおりとなっている。

表5 肉豚の出荷規模別飼養状況 (2010年)

(単位:万戸、万頭、%)

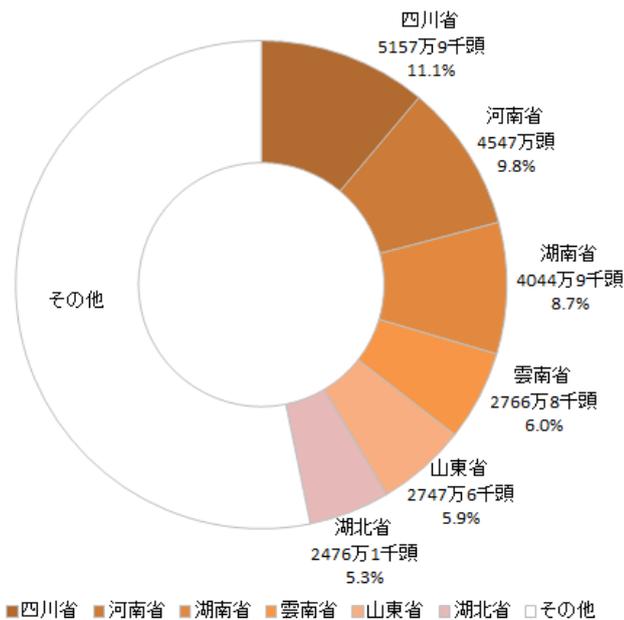
区分/規模	全体	1~49頭	50~99頭	100~499頭	500~999頭	1000~2999頭	3000~4999頭	5000~9999頭	10000頭以上
戸数	6,173.5	5,908.7	168.5	74.3	14.5	5.4	1.2	0.6	0.4
割合	100.0	95.7	2.7	1.2	0.2	0.1	0.0	0.0	0.0
飼養頭数	93,399.9	33,149.5	11,900.9	16,087.2	9,543.5	8,331.4	4,329.3	3,861.3	6,196.8
割合	100.0	35.5	18.4	17.2	10.2	8.9	4.6	4.1	6.6

資料：中国農業部 「中国畜牧業年鑑」

① 養豚の飼養動向

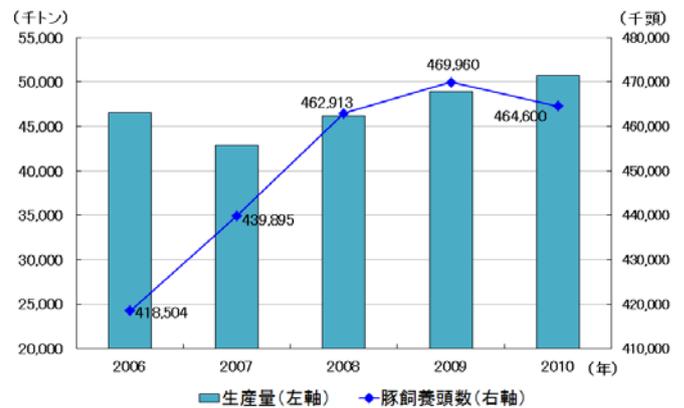
2006年上半期は、豚の価格が下落したため、養豚農家は母豚のとう汰や子豚の安売りをを行い、損失軽減を図った。さらに、PRRSなどの疾病の蔓延により、母豚の流死産が多発した結果、豚の飼養頭数は4億1850万頭となった。2007年以降、価格反転に伴う農家の生産意欲の向上や、政府による繁殖母豚導入とワクチン接種経費に対する補助などを背景に徐々に回復し、2010年は前年と同程度の4億6460万頭(同1.1%減)となった。地域別に見ると、中南部や西南部などの中部地域から南方地域が比較的多い状況となっている。

図2 地域別肉豚飼養割合 (2010年)



資料：中国農業部 「中国農業年鑑」

図3 豚飼養頭数と豚肉生産量の推移

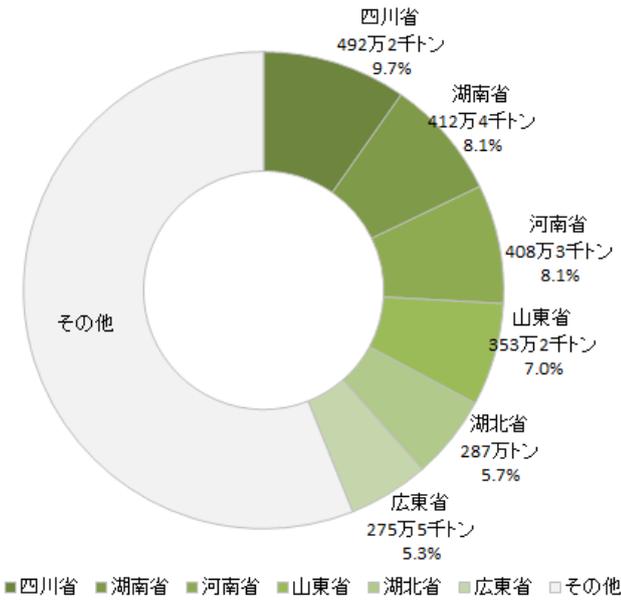


資料：中国農業部 「中国農業年鑑」

② 豚肉の需給動向

豚肉生産は、国民所得向上による支出増加などを背景に増加傾向にあり、2010年の豚肉生産量は、前年比3.6%増の5071万2000トンとなった。地域別に見ると、中南部や西南部に位置する上位6省で2228万6000頭と、中国の豚肉生産量の44%を占める。

図4 地域別豚肉生産割合（2010年）



資料:中国農業部「中国農業年鑑」

また、消費量は、同4.1%増の5084万9000トンとなり、都市部における1人当たり豚肉年間消費量は、同1.1%増の20.73キログラム、農村部で同3.2%増の14.40キログラムとそれぞれ増加した。

豚肉輸入は、新型インフルエンザ（H1N1）の発生により、米国の一部の州からの輸入が禁止されたことなどを背景に2009年には一時的に減少したものの、2010年には旺盛な国内需要に応えるべく、同176.7%増の41万5000トンと、北京オリンピック開催の2008年の輸入量に近い状況にまで回復した。2010年は、主な輸入相手先国はデンマーク、カナダ、米国、スペイン、ドイツとなっている。また、豚肉輸出量は、同20.9%増の27万8000トンとなった。主な輸出相手先国は香港、キルギスタン、マカオであった。

表6 豚肉需給の推移

(単位:千トン)

区分/年	2006	2007	2008	2009	2010
生産量	46,505	42,878	46,205	48,908	50,712
輸入量	90	198	437	150	415
輸出量	595	350	223	230	278
消費量	46,000	42,726	46,419	48,828	50,849

資料:中国国家统计局「中国統計年鑑」(生産量)及びUSDA「China, Livestock and Products Semi-annual」(2012年4月:輸入量及び輸出量)

③ 豚肉の価格動向

豚肉卸売価格は、国民所得の向上に伴う需要の増加を背景に上昇基調にあり、2007年には前年比54.4%高の16.77元となり、2008年には20元を超えた。その後、中国国内で大規模な疾病が発生しなかったことなどにより、出荷が安定的であったことから、2010年には同2.5%高の1キログラム当たり16.26元となった。

表7 豚肉価格の推移

(単位:元/キログラム)

区分/年	2006	2007	2008	2009	2010
豚肉卸売価格	10.86	16.77	20.51	15.87	16.26

資料:中国農業部「中国農業発展報告」

注:各価格は豚後肢肉の卸売価格

(2) 酪農・乳業

中国の酪農の歴史は非常に古く、今から5千年前に遡るといわれているが、商品化生産を伴う近代的な酪農・乳業は1800年代後半に黒龍江省で始まったと言われている。

1949年の中華人民共和国成立前後の酪農・乳業は、主として外国からの移住者や富裕層のための産業であったが、1989年、中国国家評議会は、国家経済発展の推進において初めて酪農・乳業を重要な産業であると位置づけた。その後、1997年、国務院は「全国栄養改善計画」を策定し、牛乳・乳製品の栄養価値に関する普及啓発が実施されたことで、牛乳の消費は拡大し、2000年には、農業部等により、小・中学生の牛乳の飲用を促進することを目的とした「学生飲用乳計画」が公布・施行されるなど、その後も、酪農振興及び乳業メーカーの支援が進むとともに、生乳生産基地の発展計画などが相次いで実施されていった。

FAOのデータによると、2010年の中国の生乳生産量(牛のみ)は、EU、米国、インドに次ぐ世界第4位、全世界に占める割合は6.0%となっている。しかし、中国の酪農は、乳牛の改良、飼料の確保、飼養管理技術の未熟などの課題が多い。乳業も、2008年の生乳にメラミ

ンの混入事件にみられるように、品質管理の徹底やコー
ルドチェーンなど流通体制の整備などに課題がある。

年間の出荷規模別規模別飼養状況は以下のとおりとな
っている。

表8 乳牛の出荷規模別飼養状況（2010年）

（単位：万戸、万頭、％）

区分／規模	全体	1～4頭	5～9頭	10～99頭	100～999頭	1000頭以上
戸数	231.0	175.1	34.6	20.2	1.0	0.1
割合	100.0	75.8	15.0	8.8	0.4	0.0
飼養頭数	1,642.8	433.9	243.0	462.7	331.5	171.6
割合	100.0	26.4	14.8	28.2	20.2	10.4

資料：中国農業部「中国畜牧業年鑑」

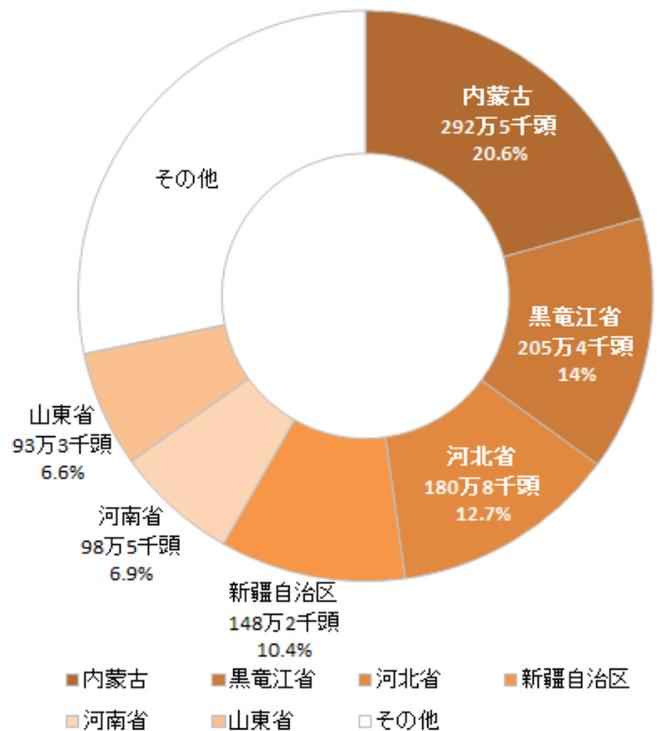
① 乳牛の生産動向

ア 飼養頭数

乳牛の飼養頭数は、増加傾向で推移し、2010年は前
年比2.8%減の1420万1000頭となった。地域別に見る
と、華北・東北地方に位置する上位6省・自治区で1018
万7000頭と、中国の乳牛飼養頭数（1420万1000頭）
の70%を占める。

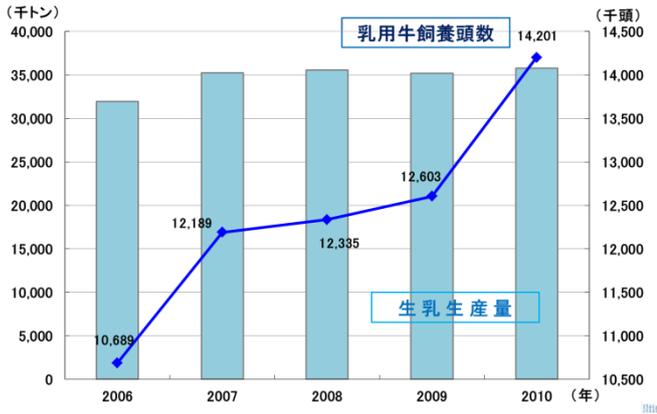
中国の乳牛は、概ね3分の2程度がホルスタイン種お
よびその交雑牛などであるといわれている。主要な乳用
品種は、黄牛雌牛とホルスタイン雄牛の交雑種に、さら
にホルスタインの血統を累進交配して作出された中国黒
白花牛（Chinese Black and White）と呼ばれる品種であ
る（なお、中国では85年以上、ホルスタイン種の血統
が87.5%以上のもの（＝ホルスタイン雄牛を三代以上交
配したもの）を「中国ホルスタイン」と呼んでいる。）。
しかし、乳牛の改良や飼養管理技術などは先進国に比べ
て遅れていることや、乳肉兼用種も飼養されていること
などから、乳牛の生産性は低く、1頭当たり年間平均生
乳生産量は約3,500～4,200キログラムといわれている。

図5 地域別乳牛飼養割合（2010年）



資料：中国農業部「中国農業年鑑」

図6 乳牛飼養頭数と生乳生産量の推移



資料：中国乳業協会「中国乳業年鑑」(飼養頭数)
中国国家统计局「中国統計年鑑」(生乳生産量)

イ 生乳生産量

生乳生産量は、牛乳の栄養知識の普及などにより、消費が伸びたことから、1998年以降2008年まで一貫して増加傾向で推移し、2010年は同1.6%増の3575万6000トンとなった。

表9 生乳需給の推移

(単位：千トン)

区分/年	2006	2007	2008	2009	2010
生産量	31,934	35,252	35,558	35,188	35,756
輸入量	2	2	4	7	9
輸出量	38	45	39	21	24
消費量	31,898	35,209	35,523	35,175	35,741

資料：中国国家统计局「中国統計年鑑」、中国海関総署「中国海関統計年鑑」

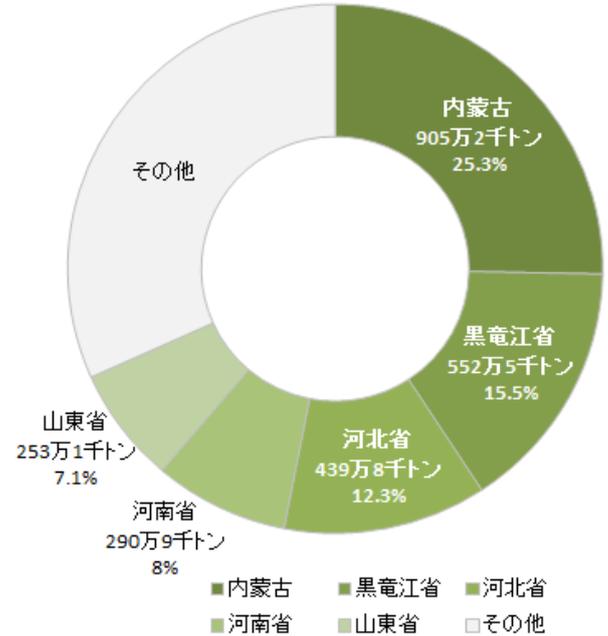
注：輸入量、輸出量は製品重量ベース(HS0401.10 および 0401.20)

ウ 地域別生乳生産動向

生乳は、東北部から華北、西北部などを中心に生産されている。2010年の主産地の牛乳生産量は、華北・東北地方に位置する上位5省・自治区で2441万5000トンと、中国の生乳生産量(3575万6000トン)の7割近くを占めた。そのほか、天津市(69万トン)や北京市(64万

1000トン)、華中部の上海市(24万7000トン)などの、大消費地の近郊においても生産されている。

図7 地域別生乳生産割合(2010年)



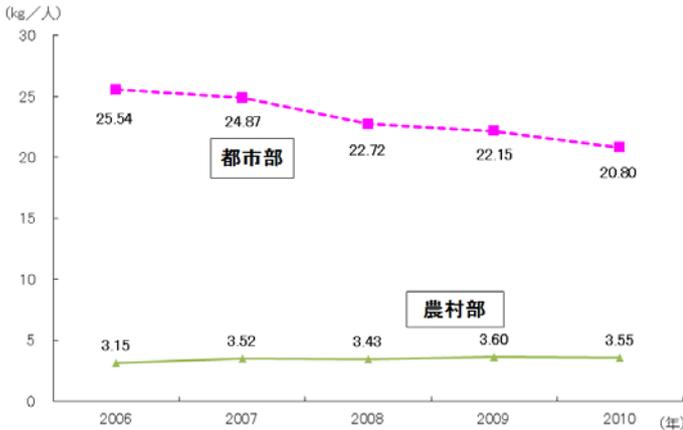
資料：中国農業部「中国農業年鑑」

② 牛乳・乳製品の需給動向

2010年の1人当たり牛乳・乳製品年間消費量は、都市部で同6.1%減の20.80キログラム、農村部で同1.4%減の3.55キログラムとなった。これは、2002年と比較すると2倍以上に増加しているものの、牛乳や乳製品が中国の食文化に定着していないこともあって、絶対量としては少ないものとなっている。

注：上述の中国の都市部及び農村部における1人当たり年間消費量は、一定数の家庭を抽出したアンケート調査により算出されている(全消費量を総人口で除して算出しているのではない)。

図8 1人当たり牛乳・乳製品の消費量の推移



資料: 中国国家统计局「中国統計年鑑」

注: 都市部の数値は、牛乳・粉乳・ヨーグルトの数値をそれぞれ 1:7:1 のウェイトで生乳換算した合計値

品目別にみると、かつて乳製品は、粉乳が主体であった。最近では国民の健康志向の高まりなどを背景にヨーグルトの伸びが著しい。ただ、乳幼児向けおよび中高齢者向けには、粉乳が主要な乳製品の1つである。

一方、同じ乳製品であるチーズやバターは、大都市を中心に、洋食などの外食産業を通じた利用・普及が進んでいるものの、国民全体への浸透はまだこれからという段階である。

2010年の粉乳の需給について見ると、全粉乳の生産量は前年比5.4%増の103万トン、消費量は同29.0%増の137万3000トン、輸入量は同84.2%増の32万6000トンと大幅に増加した。これは、粉乳やヨーグルトなどに対する国内の強い需要に牽引され、乳業メーカーは、これまで国際相場よりも安価な国産品を使用していたものが、メラミン混入事件以後、国内産生乳への信頼が失われたことにより、国産品を敬遠して輸入品の利用を増やしたためである。

主な輸入相手先国は、FTA締結により関税削減の恩恵を受けたニュージーランドが9割弱、続いて豪州が5%程度となっている。

表10 全粉乳需給の推移

(単位:千トン)

区分/年	2006	2007	2008	2009	2010
生産量	1,030	1,150	1,120	977	1,030
輸入量	74	59	46	177	326
輸出量	33	72	62	10	3
消費量	1,071	1,137	954	1,064	1,373

資料: USDA「Dairy: World Markets and Trade」(2012年7月)

脱脂粉乳は、2004年から2005年にかけて中国各地で発生した粉乳の安全性をめぐるさまざまな事件(偽ブランド、劣悪な品質の粉乳による事故や栄養障害、成分基準違反など)の影響により消費は低迷したが、品質向上などの信頼回復に努めたことなどにより、2008年には消費量は上昇に転じ、2010年には同16.1%増の14万4000トンとなった。これを受け、国内生産が安定して推移する中、輸入量は増加し、2010年には同27.1%増の8万9000トンとなった。主な輸入相手先国は、全粉乳と同様、ニュージーランドが5割強、続いて米国が15%程度となっている。

表11 脱脂粉乳需給の推移

(単位:千トン)

区分/年	2006	2007	2008	2009	2010
生産量	55	58	53	54	55
輸入量	62	40	55	70	89
輸出量	1	4	1	0	0
消費量	116	94	107	124	144

資料: USDA「Dairy: World Markets and Trade」(2012年7月)

(3) 肉用牛・牛肉産業

中国の牛肉は、従来、廃用した役牛を食用に供するにすぎなかったが、政府が黄牛種(水牛およびヤクを除く在来種。役肉兼用型)の品種改良を進めることで、肉質改善が進み、90年代に入り、本格的な牛肉生産への取り組みが始められた。

近年、経済成長に伴う所得向上を背景に、外食産業が発展し、国民が外食などで牛肉を食する機会が増加している。世界的に見るといまだ低い水準にあるものの、今後も中国経済の成長が見込まれることなどから、引き続き、牛肉の消費量は増加傾向で推移していくものとみられる。

なお、FAOのデータによると、2010年の中国の牛肉生産量は、米国、ブラジル、EUに次ぐ世界第4位に位置し、全世界に占める割合は9.7%となっている。

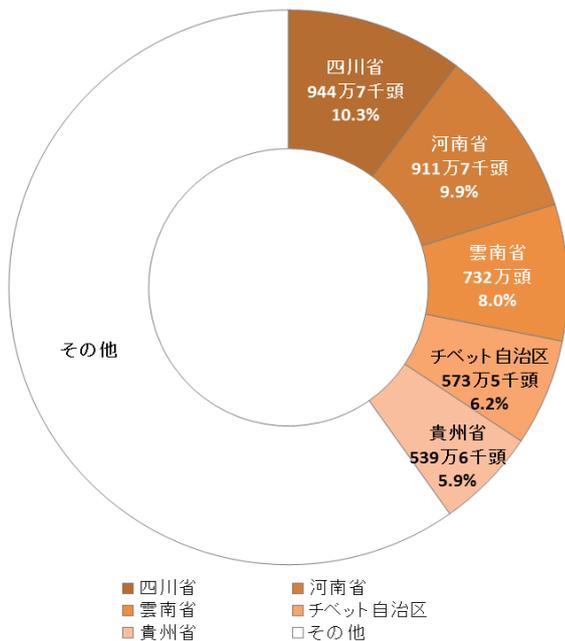
年間の出荷規模別規模別飼養状況は以下のとおりとなっている。

表12 肉用牛の出荷規模別飼養状況（2010年）

(単位: 万戸、万頭、%)

区分/規模	全体	1~9頭	10~49頭	50~99頭	100~999頭	1000頭以上
戸数	1,354.5	1,300.7	43.6	7.6	2.4	0.1
割合	100.0	96.0	3.2	0.6	0.2	0.0
飼養頭数	5,982.0	3,491.2	1,103.6	543.6	690.8	152.8
割合	100.0	58.4	18.4	9.1	11.5	2.6

資料: 中国農業部「中国畜牧業年鑑」



資料: 中国農業部「中国農業年鑑」

注: 牛類全体の頭数から、乳牛の飼養頭数を除いた数

表13 牛肉需給の推移

(単位: 千トン)

区分/年	2006	2007	2008	2009	2010
生産量	5,767	6,134	6,132	6,355	6,531
輸入量	3	8	8	23	40
輸出量	90	81	58	38	51
消費量	5,680	6,061	6,082	6,340	6,520

資料: 中国農業部「中国農業年鑑」(生産量)及びUSDA「China, Livestock and Products Semi-annual」(2012年4月: 輸入量及び輸出量)

表14 牛肉価格の推移

(単位: 元/kg)

区分/年	2006	2007	2008	2009	2010
牛肉卸売価格	16.46	19.77	28.06	29.09	29.76

資料: 中国農業部「中国農業発展報告」

(4) 養鶏・鶏肉産業

中国の養鶏は、1970年代末の農政改革を契機として大きく発展し、豚肉に次ぐ食肉として消費されるようになった。最近では、中国人の嗜好に合う在来鶏（黄色種。いわゆる地鶏）やその特色を活かした在来鶏と輸入鶏との交配による品種改良鶏が生産の主流となり、消費者のニーズに合わせた生産が進められていることから、今後、更なる生産・消費の増加が見込まれる。

なお、FAOのデータによると、2010年の中国の鶏肉生産量は、米国に次いで世界第2位であり、全世界の生産量の13.7%を占めた。

鶏肉輸出については、鳥インフルエンザ、ニューカッスル病など家畜感染症の常在化や抗生物質の残留問題など、家畜衛生や飼養管理の問題に直面している。2002年には、動物用医薬品の残留を理由として、EU向けの中国産非加熱鶏肉の輸出が一時停止となり、2004年には、

高病原性鳥インフルエンザの発生を理由として、日本も輸入の一時停止措置を講じ、現在に至っている。その後、中国の鶏肉輸出は、鶏肉調製品が中心になり、国内需要を背景に、2008年と2009年に減少した輸出量は、2010

年には、同30.2%増の37万9000トンと急増した。主な輸出相手先国は日本、香港などとなっている。

年間の出荷規模別規模別飼養状況は以下のとおりとなっている。

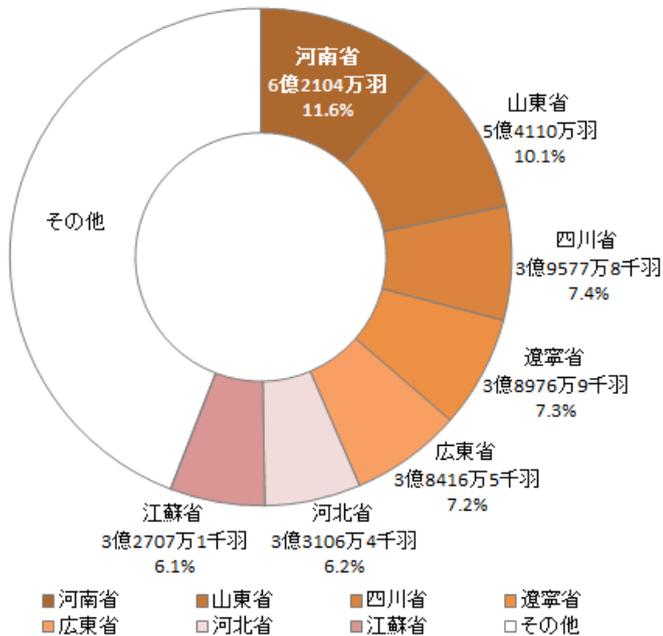
表15 家禽の出荷規模別飼養状況（2010年）

(単位: 万戸、万羽)

区分/規模	合計	1~1999羽	2000~9999羽	1万~4万9999羽	5万~9万9999羽	10万~99万9999羽	100万羽以上
戸数	2,534.5	2,483.4	33.1	15.7	1.7	0.5	0.0
割合	100.0	98.0	1.3	0.6	0.1	0.0	0.0
飼養頭数	958,347.0	136,795.4	170,714.8	332,518.7	109,644.1	126,706.5	81,967.5
割合	100.0	14.3	17.8	34.7	11.4	13.2	8.6

資料：中国農業部 「中国畜牧業年鑑」

図10 地域別家禽飼養割合（2010年）



資料：中国農業部 「中国農業年鑑」

表16 鶏肉需給の推移

(単位: 千トン)

区分/年	2006	2007	2008	2009	2010
生産量	15,066	14,476	15,336	15,949	16,561
輸入量	343	482	399	401	286
輸出量	322	358	285	291	379
消費量	15,087	14,600	15,450	16,059	16,468

資料：中国農業部「中国農業年鑑」(生産量)及びUSDA「China, Poultry and Products Semi-annual」(2012年3月:輸入量及び輸出量)

表17 鶏肉価格の推移

(単位: 元/kg)

区分/年	2006	2007	2008	2009	2010
丸どり卸売価格	8.35	10.86	12.37	11.53	12.41

資料：中国農業部「中国農業発展報告」